

# 山口日独協会ニュース

## Neuigkeiten der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Yamaguchi

### Nr. 1 3 1, August 2017

山口日独協会 〒753-0083 山口市後河原94  
Japanisch-Deutsche Gesellschaft Yamaguchi:  
Ushirogawara 94, Yamaguchi, 7530083, JAPAN  
TEL/FAX : 083-920-2965  
<http://www.jdg-yamaguchi.jp/> [info@jdg-yamaguchi.jp](mailto:info@jdg-yamaguchi.jp)

## 協会からのお知らせ

### 1 行事のご案内

#### (1) 「ドイツワイン鑑賞の宵 (酔い)」

ドイツのトリアーからモーゼルワイン協会名誉会長アドルフ・シュミット(Adolf Schmitt)さんが、8年ぶりに山口に来られモーゼルワイン試飲会を開催します。毎年お願いしていましたが、ようやく実現する事ができました。(後の写真は8年前のものです)

ゼクト(スパーリングワイン)に始まり、白ワイン、ロゼの全7種類を堪能できます。ドイツ・ワインの魅力を解説して頂きながら、たっぷりドイツ・ワインの宵(酔い)をお楽しみ下さい。なお、当ホテルの「千人湯」も入浴付です。

I 日 時 : 2017年9月16日(土) 18時~20時

II 場 所 : 湯田温泉ユウベルホテル松政(山口市湯田温泉3-5-8)

III 会 費 : 日独協会会員 ¥6,000円、日独協会会員外 ¥7,000円

IV 定 員 : 100名

\*ワイン・リスト(Probenliste)等、詳細は同封のチラシをご覧ください。

\*参加ご希望の方は、各理事か上原理事長へご連絡をお願いします。メールでも結構です。



#### (2) 「リディア・ミシュクルニック氏自作朗読会」

日時 : 11月2日(木) 18時~、場所 : 菜香亭、

会費 : 1,000円(交流会参加)

朗読会は、4年ぶりの開催です。最新の短編集『パラダイス・マシーン』から作品を朗読する予定です。人間にある日常の経験の感覚や錯誤を繊細的に描写し、現実と妄想が交え

る場面を読者の目の前に呼び起こします。

自作朗読と日本語訳朗読があります。意見交換の後、作家を交えて交流会を行います。交流会は、軽食・ワイン・ソフトドリンク付きです。こちらの参加費は、1,000円です。

#### \*作家のプロフィール

リディア・ミシュクルニック氏は、1963年オーストリアのクラゲンフルト市生まれ。グラーツやウィーンの両音楽・表現芸術大学で舞台美術や映画を学び、1991年から創作活動を開始、小説、短編やラジオドラマを執筆しています。例えば『抱擁』（2002年）、『恐怖の姉妹』（2010年）、『希望の応用について』（2014年）などがあります。

数々の文学賞を受賞。インゲボルク・バツハマンの一貫としているベルテスマン賞（1996年）、オーストリア国の文学奨学金（1996年）、オーストリアの文学奨励賞（2009年）、ウェーザ・カネッティ賞（2017年）など。日本に客員教授として教鞭を執った事もあります。

#### (3) Deutsches Fest (ドイツ祭)

毎年、山口市一の坂川周辺で行われているアートフル山口に併せて開催しています。今年から一日のみの開催となりました。10月8日（日）に行われます。

\*お問合せは、各理事か上原理事長へご連絡をお願いします。メールでも結構です  
上原（TEL:083-920-2965,090-5269-4941・メール:info@jdg-yamaguchi.jp）

## 2 会員の皆さんからの投稿、情報提供

(1) 会員の大牟田樂子さんからの投稿です。「私のドイツ留学記③（終了）」を次ページに掲載しています。

(2) 西京シネクラブ2017年8月例会～アメリカ・ドイツ・フランス映画「スノーデン」上映  
・日時：2017年9月2日（土）、・会場：山口県教育会館（山口市大手町）  
・内容：世界を揺るがした衝撃の実話。2013年6月にコンピュータ専門家のエドワード・スノーデンがアメリカ国家安全保障局の機密情報を『ガーディアン』誌に暴露した事件の詳細が描かれます。（チラシを同封）

## <会費納入のお願い>

会費：法人；10,000円、一般；2,000円、家族；1,000円、学生；1,000円  
本年度会費未納の方は、納入をお願いします。

山口銀行の場合、皆さんの通帳からATMを利用されると振込手数料は無料です。

#### 【会費納入方法】

振込先：郵便局 口座番号；01550-9-26140 加入者名；山口日独協会  
山口銀行県庁内支店 口座番号；6171166 加入者名；山口日独協会

\*お問合せは、各理事か上原理事長へご連絡をお願いします。メールでも結構です  
上原（TEL:083-920-2965,090-5269-4941・メール:info@jdg-yamaguchi.jp）

## 私のドイツ留学記 ③

### ～ドイツで日本語を学ぶ人たちに出会って～

お久しぶりです。大牟田樂子です。前は、ギムナジウムでの日本語ティーチングアシスタントとしての活動についてご紹介させていただきました。

今回は、日本にルーツをもつ子どもたちの日本語クラブ、「でんでん虫」での日本語ティーチングアシスタント活動についてご紹介します。

#### 1) こども日本語クラブ「でんでん虫」



こども日本語クラブ「でんでん虫」は、ギムナジウムの日本語の先生が主催しているクラブで、主に日本人のハーフの子どもたちと、その保護者が通っていました。

クラスは4クラスあり、14:30～17:30の時間に、0歳から3歳ぐらいまでのクラス「ミニミニ」と、3歳から6歳ぐらいまでの「ミニ」、そして6歳から10歳ぐらいまでの「キッズ①」があり、17:30～19:00に、小学校高学年から中学校2年生ぐらいまでの「キッズ②」がありました。

私は主に、一番人数の多い「ミニ」のクラスの補助と、少しレベルの上がる「キッズ②」を補助していました。内容としては、各教室の会場設営とクラスでの学習補助がほとんどで、イチゴ狩りなどのイベントの際には、引率としてついて行くこともありました。



#### 2) 「でんでん虫」でのビデオプロジェクト



「でんでん虫」でも、ビデオプロジェクトを行いました。テーマは先生と相談し、「自分たちのルーツを知ろう」ということと、Duisburgの近くにネアンデルタール人の名前の由来になったNeanderthalがあるということで、「石器時代」に決定しました。どのようなビデオにするかということのを任されたので、結構悩み、悩

んだ末、ドラマ風のもの、ドキュメンタリー風のものを作ることになりました。

ドラマ風のは、現代の子どもたちが、石器時代にタイムトリップして、石器時代の生活を知るという内容にしました。小さい子たちにも出番を作れるように、「ミニ」と「キッズ①」の2クラスを一緒に行き、「ミニ」のクラスが中心で、小道具を授業で作るなどしました。普段、絵の具などを使って絵を描くなどの授業がなかったからか、子どもたちはノリノリで作業に取り組んでくれました。



台本は、日本語が上手な「キッズ①」が主に演じることを想定して作りました。事前に「家で練習してきてね」と言っても、してこない子もいましたが、本番に強く、なんとか乗り切ることも多々ありました。

ドキュメンタリー風の作品は、高学年の「キッズ②」で行いました。「ネアンデルタール人はどんな人たちだったのか」ということを調べ、まとめるというのが主な活動でした。

また、ネアンデルタール博物館に行き、博物館の学芸員にドイツ語でインタビューし、日本語に訳すということも行いました。しかし、日本語を話すことはとても上手にできても、訳して、字幕にすることはとても難しかったようです。それでもやり切ってくれたので、本当にありがたかったです。

作品たちは、年に1度ある「でんでん虫」の発表会で発表されました。発表会には、日本人やドイツ人の保護者の方たちや、親戚の方たちが集まって子どもたちの成長を微笑みながら見ていました。

ビデオを放映すると、笑いが起こったりと様々な反応が見られ、ホッとしました。作品が終わると、拍手が起こり、子どもたちもどこか誇らしげだったのを覚えています。

### 3) 最後に

一年間のドイツ生活を通して、外国語として日本語を学ぶギムナジウム、母国語として日本語を学ぶ日本語クラブと、様々な形で日本語を学ぶ人たちに出会いました。

特に日本語クラブでは、「日本人」と「ドイツ人」の2つのアイデンティティをもつ子たちが、日本語を学んでいました。子どもたちの中には、「日本語学んだってドイツじゃ使わない」という子もいました。そういうのを聞くと、両親も日本人で、「日本人」として日本で暮らしてきた私は何も言えなくなりました。それでも、「日本に行ったら日本語話せたら格好いいじゃん？」となんとか言いながら教えていましたが、自分の中でモヤモヤとした何かがありました。



今でもそのモヤモヤがなんなのか、よくわかっていません。おそらく、これからも考えていかなきゃいけないことなんだろうと、思っています。機会があるかわかりませんが、2つのアイデンティティを持つ子たちに、「どうして日本語を学ぶの？」と尋ねられたら答えることができるように、考えて行きたいと思います。

3回に分けて私の留学体験を書かせていただき、本当にありがとうございました。稚拙な文章で申し訳なかったですが、これで、ドイツで日本語を学んでいる人たちのことが少しでも知ってもらえたら幸いです。

本当にありがとうございました。

大牟田樂子